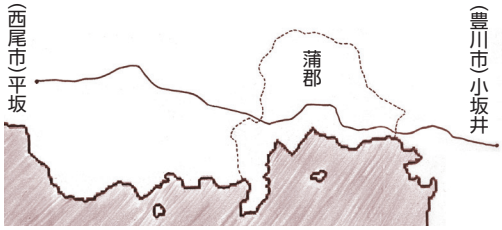
平坂街道いまむかし

博物館では、3月2日(金)～25日(日)に企画展「平坂街道をたどる」を開催します。

平坂街道とは、豊川市小坂井町で東海道から分かれ、旧御津町を通って蒲郡市に入り、西へ進んで幸田町、そして西尾市平坂町へと至る道です。三河南部を東西にはしる幹線道路として、かつては多くの人々が行き交いました。企画展では、平坂街道の跡をたどるとともに、街道沿いの史跡や文化財について紹介します。



〈街道の現在〉

平坂街道に沿って歩いていくと、ところどころに江戸時代に造られた常夜灯や古い道しるべなど、歴史に関する見所が数多く存在します。

区画整理によって街道が消滅してしまったところや、道幅が広くなって様子がすっかり変わってしまったところがある一方で、昔ながらの道が今も残っているところがあります。

左の写真に見える平坂街道ですが、当時の幹線道路といっても、現在のように自動車が通るわけでもなし、誠に細い道です。企画展では、このような「街道のなごり」を多数紹介していきます。「えっ、あの道が平坂街道だったの!?」という再発見も多々あろうかと思います。

その他、近隣の市町・寺社などの協力を得て、日頃は目にすることができない貴重な文化財をたくさん出展します。ぜひ博物館にお越しください。

竹谷町地内の現在の平坂街道

季節限定！ハンドパワー

最近、手からビームが出せるようになりました。まだまだ修行が足りないせいか、ほんとに小さな細いビームが指先から放たれるだけですが、夕闇の中、「えいっ」と小さなかけ声とともに青白い稲妻が走る様は、何度見ても飽きません。とはいえ、狙える標的は車のドアや金属の手すりくらい。しかもビームを放った後は、自分の指のほうがジンジン痛むという体たらく。修行の道は険しそうです…。

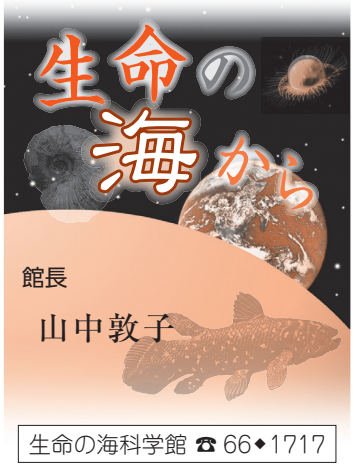
冬の厄介者〝静電気〟

そう、このビームの正体は〝静電気〟。何を隠そう、実は私、かなりの静電気体質なのです。夜に車から降りるときは、小さな稲妻が見たくて、ついつい指先をドアノブに近づけては「えいっ」と放電させています。ただ、〝手からビーム〟というお楽しみ(?)のためだけではありません。あっちでバチッ！こっちでバチッ！と意図せず放電しないよう、静電気を逃がしているのです。帯電すればホコリが集まるし、放電すれば痛いしで、静電気はもっぱら冬の厄介者。なんとなく肩身が狭い体質です。

地球誕生の功労者?

ところがこの厄介者、実は惑星地球の誕生に重要な役割を果たした功労者だったのかもしれません。地球はおよそ46億年前、原始太陽系星雲の中を漂う無数の岩のかたまりが衝突・合体してできたと考えられています。微惑星とよばれるそれらの岩は、星雲の中の微細なチリが集積してできたとされているのですが、チリが寄せ集まるのに静電気が一役買ったとする説があるのです。

ホコリを吸い寄せてしまう静電気体質の皆さん、大いに誇りに思ってください！



46億年前、生まれたばかりの太陽を取りまいているガスとチリの雲